

## カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2015-2016 に輝いたのは『マツダ RX-8』

中古車情報サイト『カーセンサー』は、膨大なデータを分析し  
1年間で最もユーザーが注目した中古車を調査、12月19日に特設サイトなどで発表予定です

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長：山口 文洋）が企画制作する中古車情報誌『カーセンサー』は、この一年で掲載された約6000モデルの車の中から、中古車マーケットでのユーザーの購入意欲に着目し、ポイント化を行いランキングを作成しましたのでご報告いたします。その結果、ユーザーの方々の関心を最も集めたのはマツダ RX-8であることがわかりました。

### ■カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2015-2016はマツダ RX-8

カーセンサーが保有する膨大なデータをもとに、中古車市場でユーザーの方々の購入意欲が最も高かった車種が何かを探る「カーセンサー・オブ・ザ・イヤー」。第2回となる今回その栄誉に輝いたのは、マツダ RX-8でした。昨年の2位からついにトップの座を獲得。2012年の生産終了からそれほど時間が経過しておらず、依然として高年式のものも多数流通しています。またロータリーエンジン搭載というキャラクター、車両本体価格60万円以下の手が届きやすい価格帯の物件への人気など、複数の要素から、今回の栄冠へとつながりました。



### ■カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2015-2016 TOP10

- 1位 マツダ RX-8（初代） 昨年順位：2位
- 2位 マツダ CX-5（現行型） 同：1位
- 3位 スバル レガシィツーリングワゴン（4代目） 同：9位
- 4位 トヨタ ヴォクシー（現行型） 同：圏外
- 5位 トヨタ ハリアー（現行型） 同：圏外
- 6位 ミニ ミニ（初代） 同：4位
- 7位 ホンダ ヴェゼル（現行型） 同：30位
- 8位 スバル レガシィB4（2代目） 同：26位
- 9位 日産 リーフ（現行型） 同：3位
- 10位 ダイハツ コペン（初代） 同：14位



受賞車となったマツダ RX-8をはじめ、獲得ポイントが多かった上位10車種は上記の通り。受賞車であるマツダ CX-5も2位と変わらぬ人気を誇っています。またスバル レガシィツーリングワゴンや日産 リーフが昨年に続きトップ10入りを果たし、ニューフェイスの登場も目立ちました。トヨタ ヴォクシーとハリアーは昨年の圏外から一挙に4, 5位と上位を獲得しています。登場後しばらく時間が経過し、中古車ならではの割安感が出てきたこうした車種のランクインは、ユーザーの賢い選択を反映しているといえます。

#### ※選考方法

2014年11月1日～2015年10月31日の1年間においてカーセンサーnetに掲載されたすべてのモデルのうち

①上記の期間中でカーセンサーnetに掲載された総台数

②ユーザーから寄せられた問い合わせの総件数

③掲載された1台当たりの問い合わせ集中率

以上の要素を独自のルールでポイント化し、ポイント数が最も高かったモデルをその年のイヤーカーとする

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

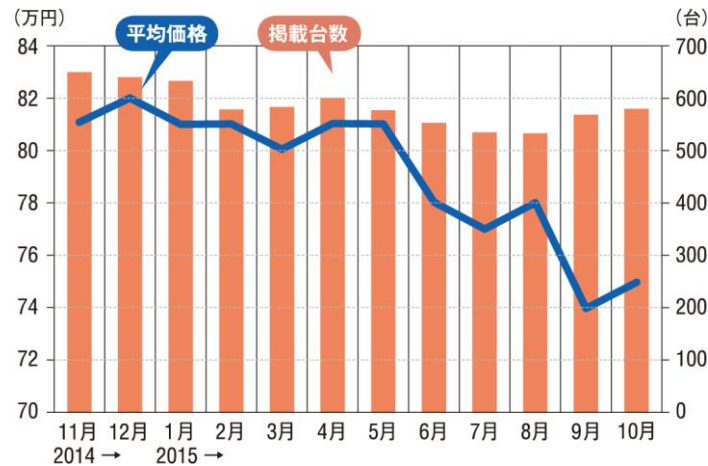
【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

## ■RX-8が注目された理由を分析

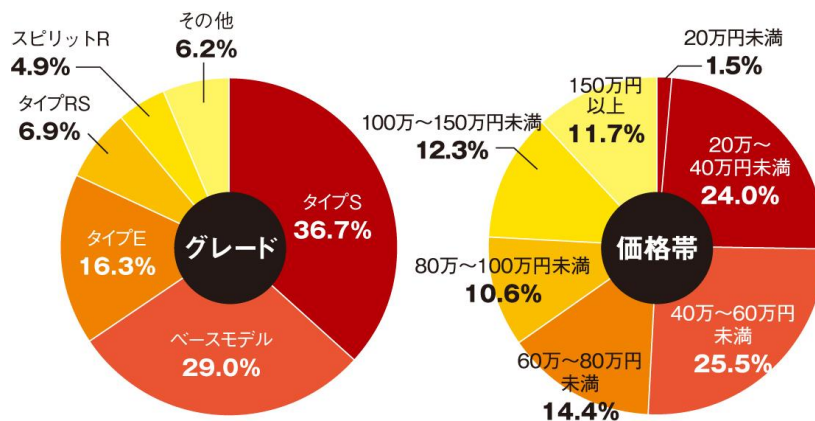
### ☆十分な掲載台数と良質な物件が人気を後押し

下のグラフは2014年11月～2015年10月の1年間のRX-8の流通量と相場の平均価格の推移を示したもので（流通量は毎月末頃のカーセンサーnet掲載台数を参照）。増減はあるものの、流通量は概ね500台半ば～600台半ばの水準で推移しています。条件を絞り込んで選ぶには若干物足りないものの、比較的マニアックなモデルとしては十分すぎる量といえます。また、注目すべきは平均価格。流通量に大きな変動がないわりに、平均価格は下落。これは高価格物件が売れ、低価格物件の市場ストックが増えたことを意味しています。一定数存在するマニア層に加え、スポーツカー人気の再燃に反応した潜在ユーザー層が状態の良い即戦力物件に注目したことが、受賞につながったと考えられます。



### 他車種ではなくRX-8同士で比較検討するユーザーが3割超

RX-8の中古車物件に対するユーザーからの問い合わせの傾向を示したものが下のグラフです。グレード別では、それぞれの流通量に概ね比例しています。価格帯別では、相場の平均価格より安い車両本体価格60万円以下の車への問い合わせが半数近くを占めるのが特徴となりました。興味といったレベルではなく、購入を視野に入れた現実的な段階で行われる問い合わせというものの性質を考えると、低い価格帯の車に注目するのは自然といえます。一方で150万円以上の高額物件への問い合わせが約12%あるのは、状態の良い即戦力の車が人気を集めたことを示しています。また興味深いのはRX-8との比較車種です。最も割合が高いのはRX-8同士での比較で、実に3人に1人がRX-8一本に絞って中古車を探していたということになります。



### カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2015-2016を特集した「カーセンサー 2月号」は12月19日より順次発売

受賞車となったRX-8の詳細解説はもちろん、300万円以上で注目度の高かった「ハイエンド部門」や生産終了15年以上の「ビンテージ部門」など、各部門賞も選出。ポイント獲得上位100台も一挙に紹介するなど盛りだくさんの内容となっています。

### 中古車情報サイト「カーセンサーnet」では、カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー特設サイトにて今回の結果を12月19日に公開予定。

カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー特設サイト（12月19日公開予定）：[http://www.carsensor.net/pro/cs\\_coty/](http://www.carsensor.net/pro/cs_coty/)  
カーセンサーnet：<http://www.carsensor.net/>

# カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2015-2016 「地域別ランキング」

## ●北海道

- 1位 スバル レガシィB4 (2代目)
- 2位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
- 3位 スバル フォレスター (2代目)

1位から3位までをスバル車が独占。トップ10中でも7モデルがランクインしています。同社お得意の高い悪路走破性が、積雪量の多い北海道在住のユーザーの信頼を集めた証といえるでしょう。また、4位はランドクルーザー100 (2代目)、5位はレガシィB4 (初代)と上位5モデルすべてがヘビーデューティな印象のある4WDでした。

## ●東北

- 1位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
- 2位 トヨタ エスティマハイブリッド (現行型)
- 3位 スバル レガシィB4 (2代目)

昨年1位のエスティマハイブリッド (2代目) が2位に、今回の1位はレガシィツーリングワゴン (4代目、昨年2位)。5位ステップワゴン (2代目)、6位ヴォクシー (現行型)、8位オデッセイ (3代目)などがトップ10内にある点が北海道と異なります。居住性や車内快適性の高いミニバンの4WDが東北エリアのユーザーのニーズにマッチしているようです。

## ●北陸・甲信越

- 1位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
- 2位 スバル インプレッサXV (現行型)
- 3位 マツダ CX-5 (現行型)

積雪が多い県があるため4WDが人気。1位のレガシィツーリングワゴン (4代目) は長野県と新潟県でNo.1を獲得しています。インプレッサXV (現行型) を筆頭に5位ヴェゼル (現行型)、7位ハリアー (現行型) など、都会派SUVが人気を集めている点がヘビーデューティな印象のクロカン・SUVが上位を占める北海道とは異なるところです。

## ●北関東

- 1位 日産 リーフ (現行型)
- 2位 マツダ RX-8 (初代)
- 3位 ホンダ ヴェゼル (現行型)

去年7位だったRX-8 (初代) が2位に躍進。電気自動車のリーフ (現行型) やハイブリッド車を用意するヴェゼル (現行型) が1位&3位なのは、このエリアのユーザーの環境志向を表しているのでしょうか。また5位につけているレヴォーグ (現行型) や、7位のセルシオ (3代目) という他のエリアでは珍しい顔ぶれが上位に食い込んできていることが特徴です。

## ●関東

- 1位 マツダ RX-8 (初代)
- 2位 BMW 3シリーズツーリング (2代目)
- 3位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)

RX-8 (初代) が堂々の1位。ちなみにトップ10のうち4モデルが輸入車で、特にその傾向が顕著だったのが東京都。なんと東京都はカイエン (初代) やCクラスワゴン (3代目) などトップ5すべてが輸入車でした。駐車場代などの維持費が高い東京都に住むユーザーにとって、クルマは嗜好品であることを象徴しているとも言えます。

## ●東海

- 1位 日産 リーフ (現行型)
- 2位 トヨタ ハリアー (現行型)
- 3位 ミニ ミニ (初代)

2年連続で1位はリーフ (現行型)。電気自動車が根強い人気です。そのほか、ハリアー (現行型) やヴェゼル (現行型)、CT (現行型) など本体平均価格が200万円以上するモデルがトップ10入り。自家用車の保有台数が全国No.1の愛知県やスズキが本社を置く静岡県などがあり、自動車への関心が高く、それが購入金額にも影響を与えていると考えられます。

## ●関西

- 1位 トヨタ ヴォクシー (現行型)
- 2位 スズキ ワゴンR (2代目)
- 3位 マツダ CX-5 (現行型)

1位のヴォクシー (現行型) は大阪府と兵庫県で1位を獲得。また5位のハリアー (現行型) や7位のヴェルファイア (現行型)、8位のデミオ (現行型) などの新顔がランクインしました。ちなみに兵庫県でCクラス (現行型)、奈良県と京都府で3シリーズ (現行型) が上位に入るなど、大都市圏に住んでいるユーザーは輸入車への関心が高いといえそうです。

## ●中国

- 1位 マツダ RX-8 (初代)
- 2位 マツダ CX-5 (現行型)
- 3位 スバル R2 (初代)

マツダのお膝元、広島県がある中国地方はマツダ車強し。一方でミラジーノ (初代) やワゴンR (2代目) など、軽自動車4モデルもトップ10内に。1世帯当たりの軽自動車保有台数の上位5位には2位に鳥取県 (1.03台)、4位に島根県 (1.01台) 2県がランクインしており、このエリアならではの傾向を反映した結果だったと言えます。

## ●四国

- 1位 トヨタ ヴォクシー (現行型)
- 2位 マツダ CX-5 (現行型)
- 3位 トヨタ ハリアー (現行型)

全国と似ているように思えますが、6位の180SX (初代)、7位のクラウンアスリート (2代目) など、他エリアでは珍しい車種も。ちなみに県ごとではさらに個性的で、徳島県はクラウンマジェスタ (4代目)、高知県は1シリーズ (初代)、香川県はシルビア (3代目) が首位に。ほかにも初代NSX (徳島県4位) など独自の中古車文化が垣間見えました。

## ●九州・沖縄

- 1位 マツダ CX-5 (現行型)
- 2位 マツダ アクセラスポーツ (現行型)
- 3位 日産 リーフ (現行型)

去年3位だったCX-5が首位に、昨年1位のリーフは3位にランクダウン。興味深いのは、福岡県や大分県などの北部ではコペン (初代) やムーヴ (2代目) が首位を獲得するなど軽・コンパクトが人気な一方、鹿児島県や沖縄県などの南部ではハリアー (現行型) やヴォクシー (現行型) が1位となるなど、ミニバン・SUVがランキング上位となっている点です。